

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部		
	課名	子ども福祉課		
	係名	子育て支援係		
	記入者		電話(内線)	122

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称		放課後児童健全育成事業				(3) 事業の 優先度		A		
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体		市					
① 事業の区分	主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)				
② 施策コード	13201		(総合計画掲載ページ 54 ページ)					会計区分	一般会計				
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)							財源区分	県補助				
基本施策	1-3安心して子育てできる児童福祉の充実(児童福祉)							予算科目	款 3		項 2		目 5
施策	②保育環境の充実							予算書上の	放課後児童健全育成事業				
施策内容	1保護者のニーズに合わせた保育サービスの充実							事業名称	(予算書 92 ページに掲載)				
(5) 事業期間		開始 平成 5 年 4 月から				(8) 事務分類		自治事務					
	終了		年 月まで (力年)				根拠法令						

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
小学校に通学する留守家庭児童	放課後や長期休暇中の安全で安心な居場所を提供し、子どもたちがのびのびと健やかに育つ環境を作る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
留守家庭児童へ安全で安心な居場所を提供するため、保護者が運営する放課後児童クラブへ管理運営委託をし、運営費として委託料を支払う。年度末には、実績報告の提出がある。	留守家庭児童を持つ保護者からの依頼により開始。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
利用児童数の増加により、平成26年度に結城小学校第三学童クラブ増設。平成27年度は、結城西小児童クラブの専用施設を設置。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)			
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費						
	報償費	0	20				
	需用費	409	1,868				
	役務費	26	231				
	委託料	48,450	63,019				
	使用料および賃借料	14	23				
	備品購入費	252	689				
	負担金補助及び交付金	0	0				
	合計	49,151	65,850				
	財源						
	国庫支出金 (千円)	14,922	23,273				
	県支出金 (千円)	14,922	23,273				
	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	19,307	19,304				
	合計 (千円)	49,151	65,850				
補助・起債制度名		地域子ども・子育て 支援事業費補助金	子ども・子育て支援 交付金				

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	登録児童数	目標値	人		418	458	458	458
		実績(見込)値		393	418			
	開催日数	目標値	日		268	268	268	268
		実績(見込)値		265	268			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	待機児童数	目標値	人		0	0	0	
		実績(見込)値		0	0	0	0	
		達成率		%	%			
	実施クラブ数	目標値	クラブ		13	14	14	14
		実績(見込)値		12	13	14	14	
		達成率		85.7 %	92.9 %			
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
結城西小学児童保育クラブは、結城西小学校の空き教室にて放課後児童クラブを運営していたが、区画整理事業に伴う児童数の増加により、平成27年度、エアコン完備の専用施設を設置した。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	留守家庭児童の安全な居場所確保のために、放課後児童クラブの必要性は高い。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政が行うことにより、保護者も安心して働きながら子育てができる。				
	手段の妥当性	A	妥当である	各児童クラブの事業内容に多少の差はあるが、児童の安全が確保されている。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	今後、発達につまづきのある児童が増えた場合、委託料は増加するものとする。				
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	目的とした対象者に対しては、概ね広く便益を提供している。				
有効性	成果の向上	A	上がっている	安心して子どもを預けられる場所として、学童クラブが浸透している。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	今後、学童クラブを利用する保護者は増えていくことが予想される。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
現在、保護者会が運営する放課後児童クラブへ管理運営委託をしているが、保護者への負担が大きいことから、委託方法（指定管理者委託・業務委託等）の検討が必要である。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠			
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。			
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			事業実施の方法（現在は保護者会委託）を考慮していく必要がある。 市直営や社会福祉協議会委託又は民間事業者委託等			
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。			